

2016年8月8日 全3頁

## Indicators Update

# 6月国際収支統計

輸出数量増と配当支払減で黒字幅拡大。先行きは黒字幅拡大を見込む

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 齋藤 勉  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2016年6月の国際収支統計によると、経常収支は9,744億円と、24ヶ月連続の黒字となった。季節調整値で見ると、経常収支は1兆6,484億円と27ヶ月連続の黒字となり、前月から黒字幅が2,339億円拡大した。6月には、輸出数量の増加を受けて貿易収支の黒字幅が拡大したこと、海外向け配当金支払いが減少したことなどが、黒字幅拡大要因となった。
- 先行きの経常収支は、緩やかながら黒字幅拡大基調が続く見込みである。足下で輸出数量に底入れの兆しが見られていること、7月以降原油価格が再度低下に転じていることなどから、貿易収支の黒字幅は緩やかに拡大基調が続くとみている。一方で、旅行収支黒字幅拡大基調には頭打ち感が見られているほか、産業財産権等使用料の受取金額も低調に推移している。また、国際的な金利低下や円高を受けて第一次所得収支の黒字幅は緩やかな縮小基調にある。先行きに関しても、サービス収支、第一次所得収支は横ばい圏での推移が続く見込みであり、経常収支黒字幅の本格的な拡大には時間を要するだろう。
- ただし、為替の円高方向への推移は、所得収支の受取金額減少により、経常収支の黒字幅縮小に作用するとみられる。足下では、欧州の金融不安や各国金融政策動向により、為替の変動が大きい状況が続いている。経常収支の先行きを見る上でも、為替の動向に引き続き注意が必要だ。

図表1：国際収支統計の概況(原系列)

(億円)	2016年6月	2015年6月	前年同月差
経常収支	9,744	5,410	+ 4,334
貿易・サービス収支	5,960	▲ 742	+ 6,702
貿易収支	7,636	1,227	+ 6,409
輸出	58,341	64,727	▲ 6,386
輸入	50,705	63,500	▲ 12,795
サービス収支	▲ 1,676	▲ 1,969	+ 293
第一次所得収支	4,175	6,426	▲ 2,251
第二次所得収支	▲ 391	▲ 275	▲ 117

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

## 輸出数量増と配当支払減が黒字幅拡大要因に

2016年6月の国際収支統計によると、経常収支は9,744億円と、24ヶ月連続の黒字となったが、コンセンサス(1兆1,035億円の黒字)を下回った。季節調整値で見ると、経常収支は1兆6,484億円と27ヶ月連続の黒字となり、前月(5月:1兆4,145億円)から黒字幅が2,339億円拡大した。

6月には、輸出数量の増加を受けて貿易収支の黒字幅が拡大したこと、海外向け配当金支払いが減少したことなどが、黒字幅拡大要因となった。一方、産業財産権等使用料の受取減少などにより、サービス収支赤字幅が拡大したこと、為替の円高方向への推移などを受けて、第一次所得収支の受取額が若干ながら減少したことは黒字幅縮小要因となった。

## 貿易収支～輸出数量増加が貿易収支黒字幅拡大要因に

貿易収支は7,636億円の黒字となり、前年同月から黒字幅が6,409億円拡大した。季節調整値で見ると、4,658億円の黒字となり、前月(5月:3,286億円の黒字)から黒字幅が1,372億円拡大した。6月には、ICや乗用車など消費財関連の輸出数量が増加したことが、貿易収支黒字幅の拡大要因となった<sup>1</sup>。

## サービス収支～旅行収支に頭打ち感が見られる。産業財産権等使用料受取も減少

サービス収支は▲1,676億円の赤字となり、前年同月から赤字幅が293億円縮小した。季節調整値で見ると、▲2,148億円の赤字となり、前月(5月:▲982億円の赤字)から赤字幅が1,166億円拡大した。円高、日本企業の海外活動不振等を背景に、産業財産権等使用料の受取が減少したことが主因とみられる。旅行収支(季節調整値)の黒字幅は、1,118億円となり、前月(5月:977億円の黒字)から黒字幅は拡大したものの、水準は2016年1-3月ごろと比べると低い。熊本地震に伴う訪日客数の減少は一服したものの、訪日客一人当たりの消費金額が減少していることが主因である。

## 第一次所得収支～配当金支払い減少により黒字幅拡大

第一次所得収支は4,175億円の黒字となり、前年同月から黒字幅が2,251億円縮小した。季節調整値で見ると、1兆5,219億円の黒字となり、前月(5月:1兆4,017億円の黒字)から黒字幅が1,202億円拡大した。第一次所得収支の受取(季節調整値)は前月から1,487億円減少したものの、支払(季節調整値)が前月から2,689億円減少している。外国人投資家の日本株保有比率低下などの要因から、対内証券投資に対する配当金支払いが減少したためである。

図表2：国際収支統計の概況(季節調整値)

(億円)	2015							2016					
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
経常収支	13,272	13,762	16,572	9,493	16,050	15,498	16,458	14,361	16,361	19,007	16,258	14,145	16,484
貿易収支	▲517	▲1,207	▲961	▲1,593	719	1,738	1,103	2,184	2,453	4,318	4,089	3,286	4,658
輸出	63,101	63,467	63,278	62,479	62,362	63,363	60,698	58,888	56,124	55,370	54,638	54,904	56,083
輸入	63,618	64,674	64,240	64,072	61,643	61,625	59,595	56,704	53,671	51,052	50,549	51,618	51,425
サービス収支	▲2,585	▲1,026	150	▲998	▲1,399	▲494	▲1,427	▲432	375	▲668	▲362	▲982	▲2,148
旅行収支	921	976	1,078	978	1,004	1,087	1,207	1,396	1,396	1,255	884	977	1,118
第一次所得収支	17,497	17,575	19,263	14,973	18,402	16,373	17,889	14,266	16,047	16,497	14,198	14,017	15,219
第二次所得収支	▲1,123	▲1,580	▲1,880	▲2,889	▲1,671	▲2,120	▲1,106	▲1,656	▲2,514	▲1,140	▲1,667	▲2,175	▲1,246

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

<sup>1</sup> 詳細は、大和総研レポート「6月貿易統計～2ヶ月ぶりの貿易黒字を記録。黒字幅は緩やかながら拡大傾向」齋藤勉、小林俊介(2016年7月25日)を参照。

